



令和8（2026）年度



塩尻市コミュニティ・スクール ナビゲーター

令和8年9月

塩尻市CS 11年目！

1 第2回 学校運営協議会 — 交流会を通して —

第2回の学校運営協議会は、委員やボランティアの皆さんと学校職員の皆さんとの交流会として、各学校で行われました。塩尻西部中学校区は3校合同で実施されました。

（1）昨年度より変わってきたと感じたこと

① 事前の計画から「対話」を大切に

小委員会では、せっかく先生方と交流できる大事な機会を有意義なものにしたいという思いが、どの学校でも感じられました。先生方の仕事の大変さを理解するからこそ、それぞれの声を聴き合うことの大切さが強く意識されていました。

② 「まずやってみよう」という柔軟さ

これまでのやり方にこだわらず、より良いものにするために新たな方法を考え、限られた時間を有効に使う姿も見られました。こうした姿は、11年目を迎え、対話による工夫が深まってきている一つの表れだと感じます。



（2）交流会がつないだ4つのこと

- ① お互いのことを知り合い、気軽に対話できる。
- ② それぞれの思いを知る。
- ③ 子どもたちのために、お互いの力を生かしてできそうなことを考える。
- ④ 今後も、対話できそうなときには遠慮せず気軽に話し合っていく。

どんな方法であれ、この交流会が、学校と地域がつながり、子どもたちのために力を生かし合う機会になったことは確かです。



交流会の内容

支援部代表と学校担当者の打合せ・対話

地域を实际歩き、歴史や文化に触れる

地域の大人の話を聞く

熟議のテーマ

- ・どんな学校にしたいか、キーワードで語る
- ・さらに地域の大人が参加するためには
- ・自校の子ども達に感じる
- ・学運協でできること
- ・子どもたちとどう向き合い、支えるか
- ・総合的な学習の時間について
- ・検討委員会の報告を受けて

ニュースポーツで交流

笑顔と対話が広がった交流会

一学期末から夏休み中という時期に行われたこともあり、先生方も普段より少し緩やかな気持ちで参加できたようです。会場のあちこちで笑顔が見られ、対話が弾んでいました。少しでも2学期に向けたリフレッシュ、エネルギーチャージになっていれば嬉しいです。



学校単位？ 中学校区単位？

これまで中学校区ごとに行われることが多かった交流会ですが、ここ数年は原点に戻り、学校単位で行う学校も増えています。どちらがよいということではありません。何を大事にするかで、柔軟に考えてください。小中連携という面から、時には中学校区単位で行うことも大事だと考えています。



これからにつなげるために

CS は、関わる教職員や学運協の委員（充職の方）は数年で変わることが多いです。今関わっている方々に確実に周知できるよう、今回参加しなかった先生方や委員・ボランティアの皆さんにも交流会の様子を共有して、今年度の取組や感想を来年度につなげていけるようにしてください。また、CS に長年関わってくださっている方の声も聞いてみることで、CS の変化、進化、成果、課題等が見えやすい部分もあります。1 年間のまとまりで振り返りをしながら、もう少し長いスパンで CS を見ていく視点も必要だと感じています。



参加者の声

- 学運協の方と一歩踏み込んだ話ができて良かった。学校内での情報共有がもっと必要だと思いました。
- 本音で話し合えることができて、とてもありがたい機会でした。力を出し合うことで、少しずつでも前に進める気持ちにもなりました。
- 「こんなことをお願いしてもいいのか」と感じることも依頼してみてもよいと聞き、心強く感じました。
- 地域の方に教えてもらわなければ気付かないことばかりで、学びの意欲が高まりました。



対話を重ねることで、お互いを知り、新しい一歩が見えてくる。これからも学校と地域、それぞれの力を生かしながら、子どもたちのための連携・協働を育てていきましょう。